

## 「マイナビ 2024年卒大学生 活動実態調査(9月)」を公表 約3割の学生が、就職活動中の挫折・失敗体験が「人生の中でも大きなショックだった」と回答 一方「気分転換に友達と会う」「自分を責めない」などの方法で乗り越え、内定につなげる学生も

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：土屋芳明）は、2024年卒業予定の全国の大学生、大学院生を対象に実施した、「マイナビ 2024年卒大学生 活動実態調査(9月)」の結果を発表しました。

### 《TOPICS》

- ◆ 2024年卒業予定の大学生・大学院生の9月末時点での内々定率は86.5%【図1、2】
- ◆ 「入社3年目くらいまでに活躍したい」という学生が46.1%で最多。「1年目（即戦力として活躍したい）」の回答も約1割【図3、4】
- ◆ 約3割の学生が、就職活動中の挫折・失敗体験が「人生の中でも大きなショックだった」と回答【図5】
- ◆ 就職活動での挫折・失敗を経験したものとして最も多かったのは「1次・2次面接」で53.8%。「面接という人柄を見られる場面で落とされる事が辛かった」という声も【図6、7】

### 【調査概要】

2024年卒業予定の大学生・大学院生の9月末時点での内々定率は86.5%（前月比2.6pt増）、平均内々定保有社数は2.6社（前月比0.1社増）だった。8月同様、内々定率・平均内々定保有社数ともに高い割合で推移している。【図1、2】

「入社何年目くらいまでに活躍したいか」を聞いたところ、最も多かったのは「3年目」（46.1%）で、前年とほぼ同程度だった。最多の「3年目」と回答した理由をみると、「仕事を覚えてなれるまでにそれくらいはかかると思うから」（82.9%）が最も多く、「教育や研修にある程度時間をかけてもらいたいから」（38.0%）が続いた。また「1年目（即戦力として活躍したい）」と回答した学生は「早く仕事を任せたいと思うから」や「早く出世したいと考えているから」が多く、「教育や研修にある程度時間をかけてもらいたいから」の回答が特に少なくなった。入社直後から活躍したい学生ほど、新入社員教育や研修よりも、実務・実践を通じて早く業務遂行スキルを身に付けることを重視していると推察できる。【図3、4】  
就職活動で経験した挫折・失敗が、これまでの人生における挫折・失敗と比べてどの程度のショックだったかを聞いたところ、「ショックな挫折・失敗だったが、これまでの人生での挫折・失敗と比べると小さなものだったと思った」（26.7%）が最多だった。一方で「人生の中で最もショックな挫折・失敗だったと思う」（6.8%）と「人生の中でも上位に入るショックな挫折・失敗だったと思う」（22.5%）を合わせると約3割となり、就職活動中の挫折・失敗を人生においてもかなり大きな出来事として捉える学生が一定数いるようだ。【図5】

挫折・失敗が具体的に就職活動中のどの段階で経験したものを聞いたところ、最も多かったのは「1次・2次面接（人事・現場社員との面接）」（53.8%）で、次いで「最終面接（役員・社長面接）」（33.5%）となり、面接に関する項目が上位に入った。具体的には「面接官からいい反応をもらったのに不合格だったこと」や「憧れの企業の2次面接で落ちた挫折感。ずっと働きたいと思っていたところから拒絶された感覚」などの回答があった。一方で、「気分転換に友達と会った」「自分を責めないようにした」など、うまく気持ちを切り替えて自分を鼓舞している様子もうかがえた。【図6、7】

【調査担当者コメント】

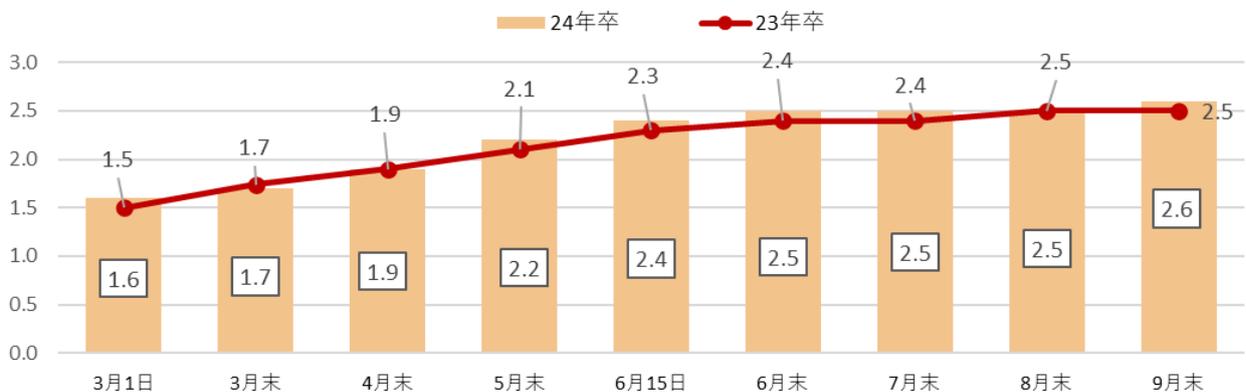
約3割の学生が、就職活動での挫折・失敗を人生においても非常に大きな挫折・失敗であったと感じており、その多くを面接の場で経験したことがわかりました。「面接が不合格だったことで人格を否定された気分になった」という声もあり、希望していた企業から不採用の連絡をもらおうと、どうしても落ち込んでしまうと思います。ですが面接の可否はあくまで「学生と企業のマッチングの結果」で、自分自身の資質や人格の問題ではないと冷静に捉えて自分なりの方法で気持ちを切り替えてもらいたいと思います。一方で、大きな挫折・失敗を経験し、それと向き合い、自分なりに克服するサイクルは今後社会に出ていくうえで欠かせないもので、社会人として成長するための貴重な第一歩であるとも言えます。就職活動をすでに終えた学生だけでなく、今後も継続する学生や現在準備をしている学生にも、挫折・失敗の経験を次のステップに活かす気持ちを大切にしてもらいたいと思います。

キャリアリサーチラボ 研究員 長谷川洋介

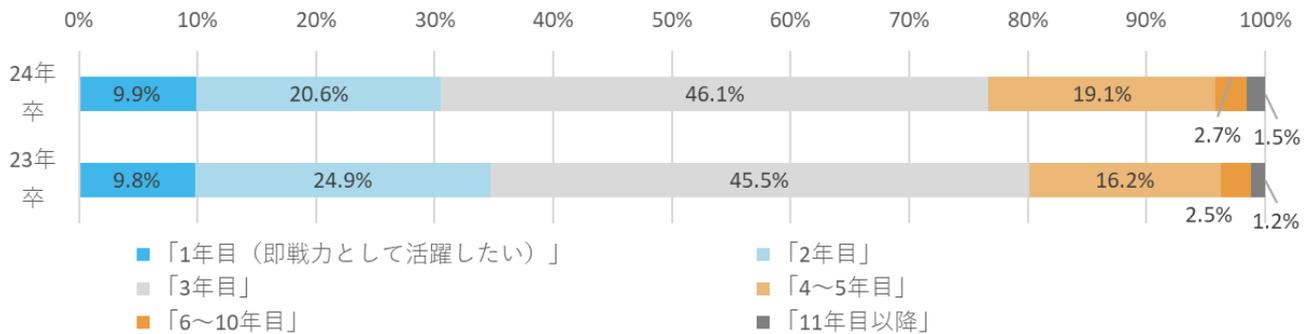
【図1】内々定率 経年比較



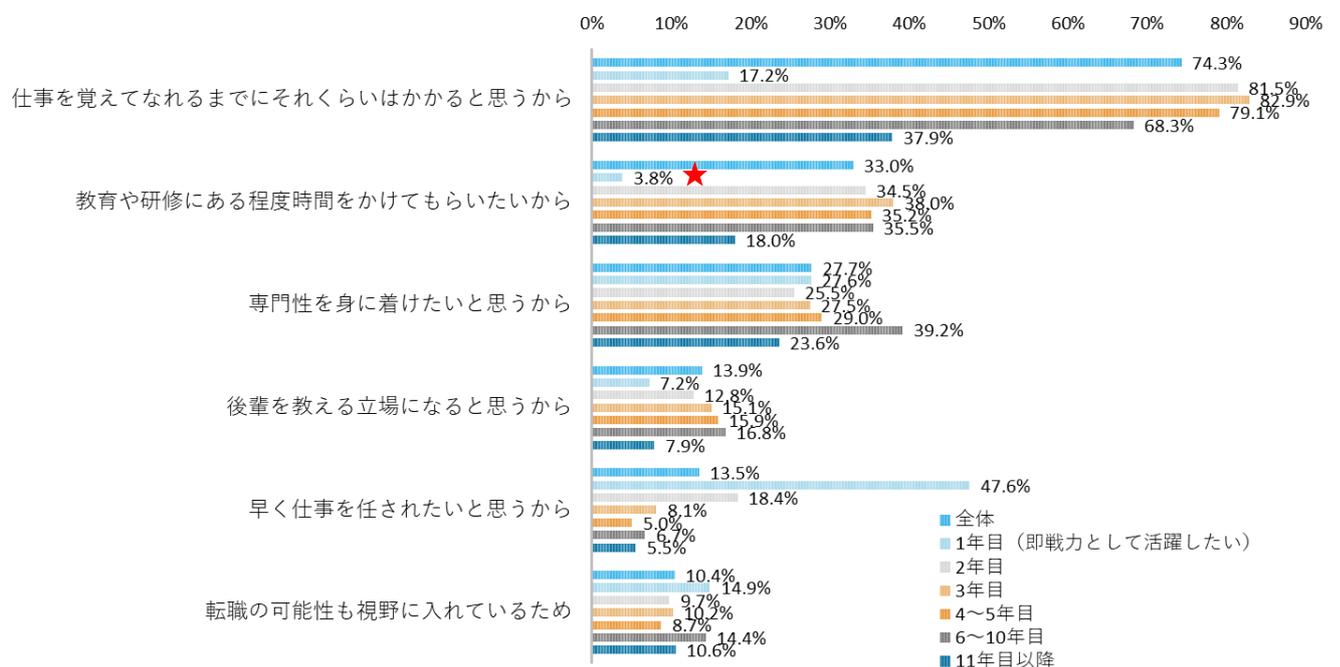
【図2】平均内々定保有社数 前年比較



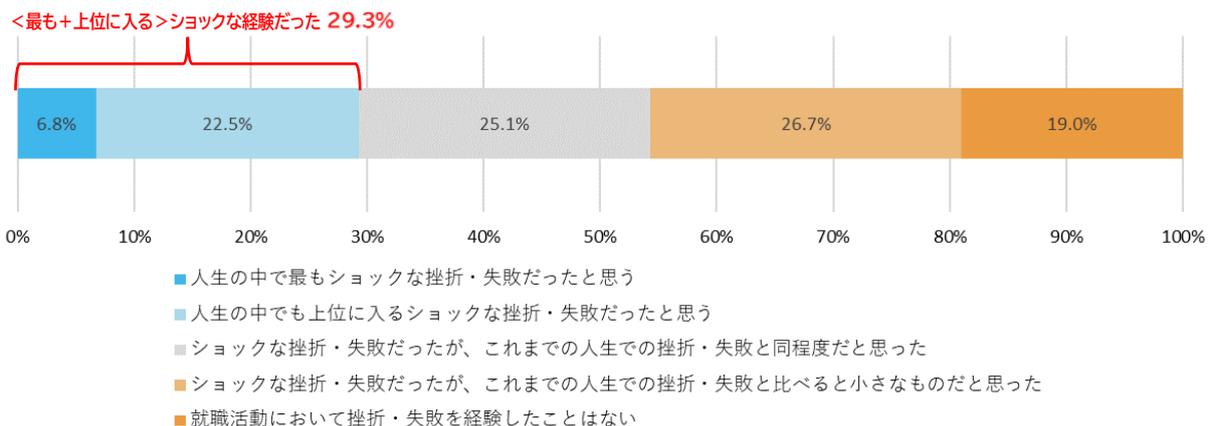
【図3】入社何年目くらいまでに活躍したいと考えているか



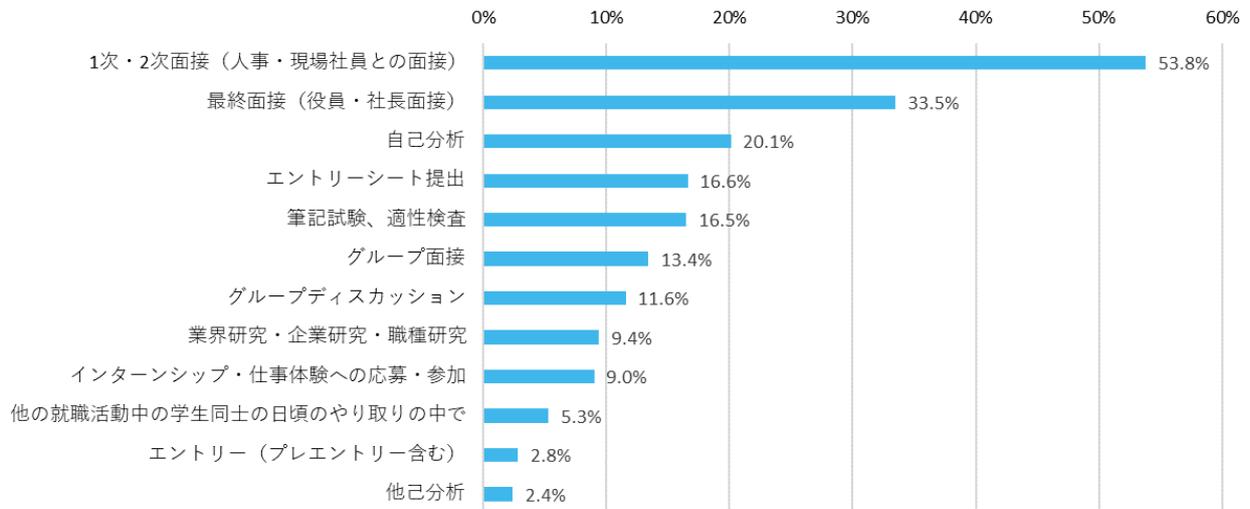
【図4】「入社何年目くらいまでに活躍したいか」別 その理由（上位抜粋）



【図5】就職活動で経験した挫折・失敗は、これまでの人生における挫折・失敗と比べて、どの程度のショックなものだったか



【図 6】【就職活動で挫折・失敗を経験した学生限定】その挫折・失敗は、就職活動のどの段階でのものだったか（上位抜粋）



【図 7】面接における挫折・失敗経験（一部抜粋）

属性	内容
文系女子	面接官からいい反応をもらったのに不合格をくらったこと。一生立ち直れる気がしなかったので、初めて自分のことで他人を頼ってキャリアセンターの人に相談しに行った。
文系女子	面接で思うように自分のことを話せなく挫折した。友人などに面接の手伝いをしてもらい、自信をつけて気持ちを切り替えた
理系男子	面接という人柄を見られる場面で落とされる事が辛かったです。面接に落ちると自分の人格を否定されたような気分になり、実際にそれに近い事を言われることもありました。特に最終面接まで行って落とされた時は掛けた時間も相まってショックが大きかったです。これに関しては、失敗を分析して次の企業に意識を向ける事で落ちた企業のことを忘れるようにしていました。むしろ、その会社よりも大きい規模の会社に就職することで見返してやるというマインドで頑張りました
文系女子	憧れの企業の2次面接で落ちた挫折感。ずっと働きたいと思っていたところから拒絶された感覚。落とした企業を後悔させてやるという気持ちでその企業より大手に入ることだけを考えて気持ちを切り替えた。
文系女子	自分と人と比べて焦ったり落ち込んだりしました。エントリーシートや、適性検査、面接で落とされるたびに人格を否定されたような気分になった。自分は自分と言いつつも乗り越えた。たまに気分転換に友達と会ったりして現実逃避をしたりして、乗り越えた。
文系男子	6月に最終面接で落ち続けた事。1か月くらい休みつつも自己分析を行い夏採用に向けての対策をする事で徐々に乗り越えていったと思います。
文系女子	反省はするが、自分にはあわなかったただけだという考えるようにすること。
理系女子	・本気で入社したいと思い、使った時間と労力と気持ちが返信一つで無に帰したときのやるせなさ ・受験勉強と違い、どんなに頑張ってもどうしようもない相性があること ・とくに内々定直前まで進んだ企業からのお祈りが一番悲しかった ・何社か選考を進めると、クヨクヨしてしまうような気持ちになった ・一方で、行き先が無いという別の不安感が高まっていった ・一社内定が出ると全く心地が違ふ
理系女子	これまで頑張ってきたのに志望理由も聞かれないまま落とされたり面接官の態度が気に食わなかったりして悔しかった。そういった場合には企業側に見る目がないんだと思ひこみ、自分を責めないようにした。

【調査概要】「マイナビ 2024 年卒大学生 活動実態調査（9 月）」

- 調査期間／2023 年 9 月 24 日（日）～9 月 30 日（土）
- 調査方法／マイナビ 2024 の会員に対する WEB アンケート
- 調査対象／2024 年 3 月卒業見込みの全国の大学生、大学院生
- 調査機関／自社調べ
- 有効回答数／1,837 名（文系男子 446 名 文系女子 746 名 理系男子 323 名 理系女子 322 名）
- ※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が 100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細は会社 HP のニュースリリース（<https://www.mynavi.jp/news/>）からご確認ください。

【本件に関するお問い合わせ先】  
株式会社マイナビ  
キャリアリサーチラボ 研究員 長谷川  
Email : [myrm@mynavi.jp](mailto:myrm@mynavi.jp)

【当社に関するお問い合わせ先】  
株式会社マイナビ  
社長室 広報部 松田  
Email : [koho@mynavi.jp](mailto:koho@mynavi.jp)